

高齢者の転入超過が続く埼玉県

はじめに

わが国の人口が減少に転じるなかでも、埼玉県の人口はこれまで増加を続けてきた。出生数から死亡数を差し引いた自然増減数は、すでにマイナスに転じているものの、他の都道府県からの転入者数が転出者数を上回る、いわゆる転入超過となることで全体としてはプラスを維持している。

埼玉県の転入超過者の中でも、近年高齢者が存在感を増しており、老人ホームなど社会福祉施設の増加を後押しする一因にもなっている。以下では、埼玉県に集まる高齢者の状況をみてみたい。

首都圏への人の流れは続いている

わが国では、高度経済成長期に首都圏や大阪圏などの大都市圏に地方から大量に人が流入したが、その後はバブル期を除いて徐々に減少傾向をたどり、今日では大阪圏や名古屋圏への流入の動きはほとんどみられなくなった。

一方、2014年12月に閣議決定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、政府は東京一極集中の是正を目標の一つに掲げたが、総務省の住民基本台帳人口移動報告(2018年)で、都道府県別の転入超過者(転入者-転出者)数をみると、82,774

人の東京都が圧倒的に多く、2番目に18,866人の神奈川県が続いている。17,036人の埼玉県は3位で、16,924人の千葉県が4位である。

首都圏(一都三県)の転入超過者数が合計で135,600人に及んでいる。ここからみる限り首都圏への人の流れは続いているが、現状は東京一極集中に歯止めがかかったとはいえない状況にある。

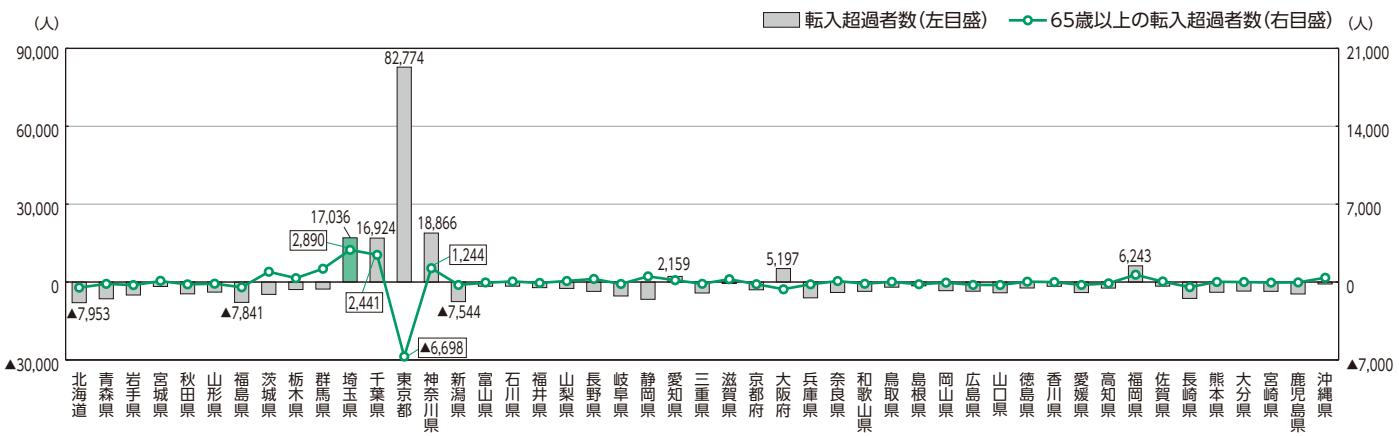
首都圏以外では、福岡県が6,243人で5位、大阪府が5,197人で6位となっているが、7位の愛知県は2,159人とどまっている。

一方、転出超過者が最も多いのは、7,953人の北海道で、以下、7,841人の福島県、7,544人の新潟県が続いている。都道府県全体では、転入超過なのが7都府県なのに対して、40の道府県で転出超過となっている。

埼玉県の65歳以上の転入超過者数は全国1位

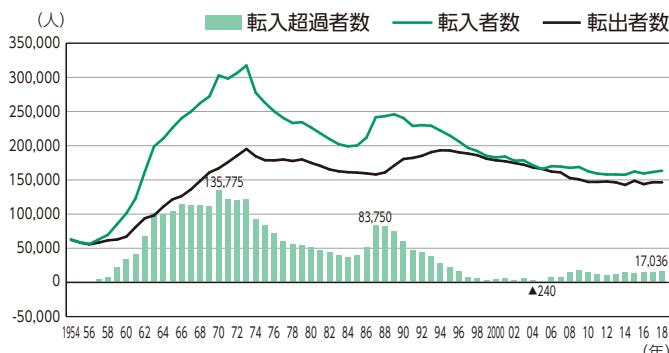
埼玉県の転入超過者数の推移をみると、その数は、1970年に135,775人まで増加した後、減少に転じた。バブル期の1987年にいったん83,750人まで増加した後は再び減少に転じ、2005年には240人の転出超過となった。近年は転入超過が続いているが、転入超過者数は2018年の17,036人まで、ほぼ横ばい水準で推移している。

●都道府県別の転入超過者数(2018年)



資料:総務省「住民基本台帳人口移動報告(2018年)」

●埼玉県の転入超過者数の推移



資料:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注)数字は日本人

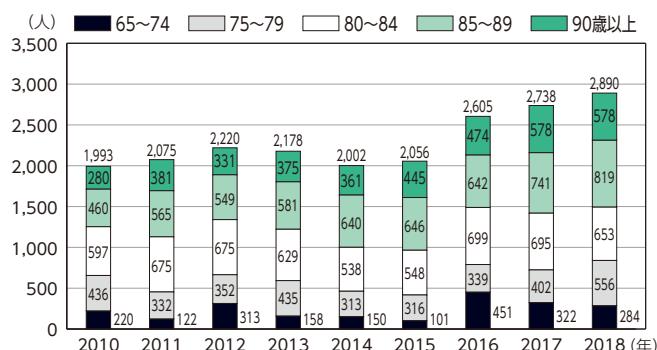
東京都に比べると、埼玉県の転入超過者数は少ないが、2018年の転入超過者の中から、65歳以上の高齢者だけを取り出してみると、少し状況が異なる。埼玉県は、高齢者の転入超過者数が2,890人で、全国1位となっており、以下、2,441人の千葉県、1,244人の神奈川県が続いている。

東京都は、65歳以上の高齢者に限ると6,698人の転出超過になっており、これは都道府県の中で最多である。首都圏を除くと、高齢者の転入転出の動きは比較的小幅なものにとどまっている。

85歳以上の転入超過者が大幅に増加

あらためて埼玉県の65歳以上の転入超過者の動きをみると、2010年の1,993人から2015年の2,056人までは、振れを伴いながらもほぼ横ばい水

●埼玉県の65歳以上転入超過者の推移



資料:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

準で推移してきたが、2016年の2,605人、2017年の2,738人を経て、2018年の2,890人へと、このところ急速に増加している。

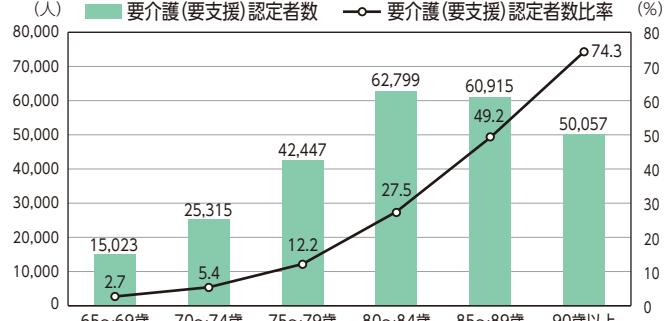
これら65歳以上転入超過者を、さらに細かい年齢階層で区切って2010年と2018年を比較してみると、65~74歳、75~79歳、80~84歳では、それぞれ増加率が+29.0%、+27.5%、+9.4%なのにに対して、85~89歳では+78.0%、90歳以上では+106.4%となっている。埼玉県においては、近年、高齢者の中でも、85歳以上の転入超過者が大幅に増加している。

親世代を呼び寄せる子供世代

埼玉県に、85歳以上の高齢者が多く集まる背景としては、高齢化に伴って自立して生活することが難しくなってきた親世代を、子供世代が埼玉県内の自宅あるいは自宅近くの老人ホーム等に呼び寄せていることが考えられる。

埼玉県内の年齢階層別の要介護(要支援)認定者数を、年齢階層別の人口で割ってみると、65~69歳では2.7%、70~74歳では5.4%、75~79歳で12.2%だが、80~84歳で27.5%、85~89歳では49.2%とほぼ半分の人が認定されている。90歳以上では、人数こそかなり減っているものの、比率は74.3%となり、ほぼ4人のうち3人までが要介護(要

●埼玉県の年齢階層別要介護(要支援)認定者数



資料:厚生労働省「介護保険事業報告(平成27年度)」、総務省「平成27年国勢調査」

(注)要介護(要支援)認定者数比率は年齢階層別の要介護(要支援)認定者数を年齢階層別人口で割ったもの。要介護(要支援)認定者数は2016年3月31日現在、年齢階層別人口は2015年10月1日現在

支援)認定者になっている。

個別にみれば、高齢になっても元気な方はたくさんおられるが、高齢化により支援や介護の必要性が高まることは避けられない。

埼玉県民の中でも、休日や会社の休暇制度を利用して、郷里の親ごさんの世話をや介護をしている人は少なくないだろう。中には定年退職を契機に、故郷へ本格的にUターンする人もみられるが、埼玉県内や東京都などで働く人にとっては、退職してUターンをしようとしても、子供の教育や住宅ローンの残る自宅の処分、新たな仕事探しなど様々な課題があり、簡単に決断できるような話ではない。

こうした人達の中から、郷里の親を自宅に引き取ったり、自宅から比較的近い老人ホーム等に入居させたりする動きが出ているとみられる。

埼玉県の有料老人ホーム数は全国2位

既にみたとおり、65歳以上の高齢者に限ると、東京都は大幅な転出超過になっている。東京都から転出した高齢者の多くが埼玉県に集まっているが、その要因の一つとして、都内の老人ホーム等の費用の高さがあげられる。

親世代が都内在住で自立度が比較的高い場合は、埼玉県内に呼び寄せる必要はないかもしれない

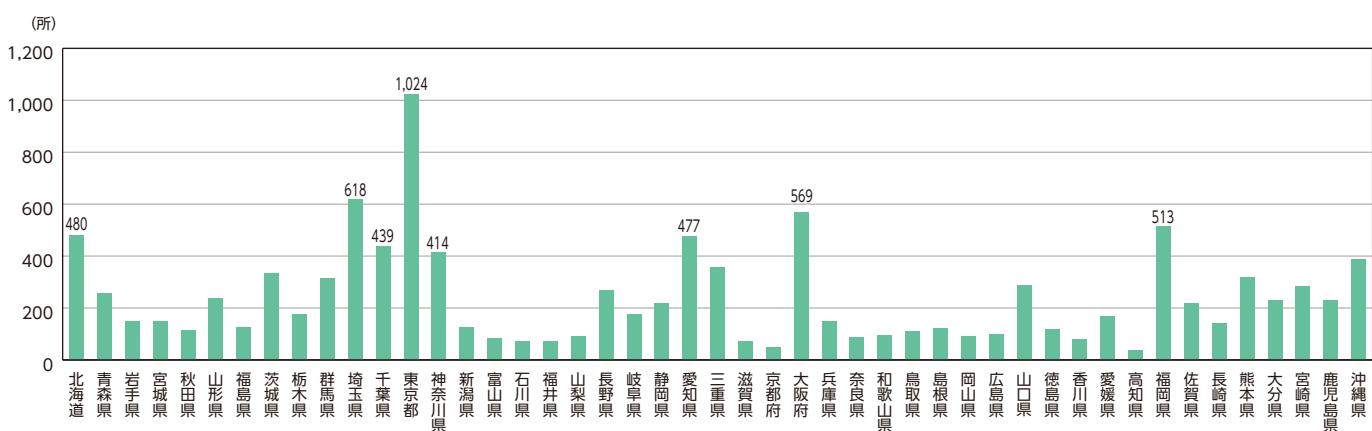
が、ある程度以上に要介護(要支援)の度合いが高まると、なんらかの社会福祉施設への入所が検討課題にあがってくる。人気があるのは、費用がリーズナブルな特別養護老人ホームだが、順番待ちが続いている施設が多く、希望してもすぐに入居することは難しい。

また、都内にも民間の有料老人ホーム等は多数存在するが、地価の高さなどを反映して、入居に高額な費用がかかる施設が少なくないようだ。埼玉県内でも、民間の施設では費用が高額なケースもあるが、都内と比較すれば手が届きやすい水準にある。こうした状況が埼玉県などの社会福祉施設に高齢者が入居する動きにつながっているとみられる。

厚生労働省の平成29年社会福祉施設等調査によると、全国で最も有料老人ホームが多いのは、1,024所の東京都で、2番が618所の埼玉県。以下、569所の大坂府、513所の福岡県、480所の北海道、477所の愛知県と続いている。439所の千葉県は7位、414所の神奈川県が8位となっている。

埼玉県における有料老人ホームの数と、埼玉県に転入してくる高齢者の数は、互いに影響しあっており、身近に比較的手頃で入居可能なホームがあるため、県外から親世代を呼び寄せたという人がいる一方で、多くの入居者が見込まれることで、埼玉県内での老人ホーム新設の動きが促されているとい

●都道府県別の有料老人ホーム数(2017年)



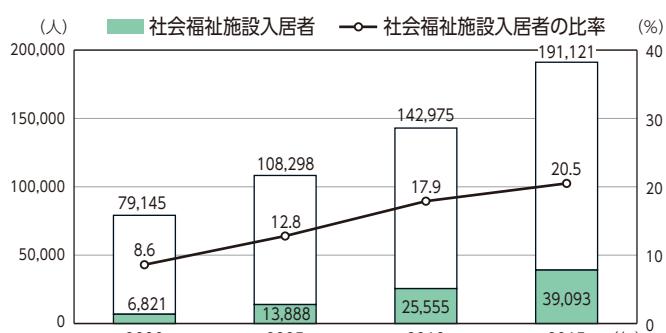
資料:厚生労働省「平成29年社会福祉施設等調査」

う面もあるようだ。

増加する社会福祉施設への入居者

国勢調査によると、2000年に79,145人だった埼玉県の85歳以上人口は、2005年の108,298人、2010年の142,975人を経て、2015年には191,121人まで増加してきた。

●埼玉県における85歳以上人口と社会福祉施設入居者



資料:総務省「国勢調査」

この間、老人ホームなどの社会福祉施設に入居している85歳以上人口は、2000年には6,821人だったが、2005年の13,888人、2010年の25,555人を経て、2015年には39,093人まで増加し、85歳以上人口の伸びを大幅に上回った。このため、2000年に8.6%だった85歳以上人口に占める施設入居者の割合は、2015年には20.5%まで増加している。

●全国と埼玉県の社会福祉施設入居者比率(2015年)

	埼玉県	全国
65歳以上人口	1,788,735	33,465,441
内、社会福祉施設の入居者 比率	71,824 4.0%	1,571,889 4.7%
85歳以上人口	191,121	4,887,487
内、社会福祉施設の入居者 比率	39,093 20.5%	933,462 19.1%

資料:総務省「平成27年国勢調査」

2015年の社会福祉施設入居者の比率をみると、65歳以上人口に占める比率は、埼玉県の4.0%に対して、全国平均が4.7%と、埼玉県は全国を下

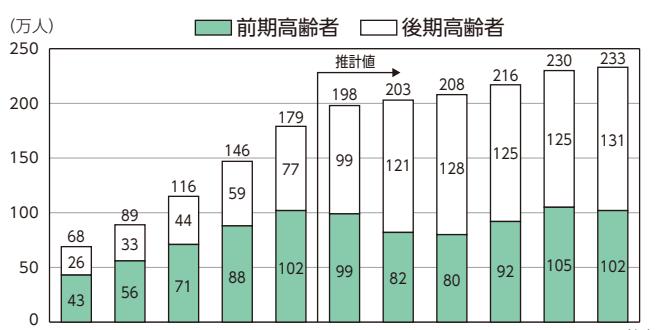
回っているものの、85歳以上人口に占める社会施設入居者比率20.5%は、全国平均の19.1%を上回っている。埼玉県への転入超過が続く高齢者が、この比率の押し上げに寄与しているとみられる。

人材確保が課題に

埼玉県では、県外からの高齢者の転入が続いたことなどから、社会福祉施設への入居者の比率が全国を上回った。こうした動きに対応する形で、有料老人ホームの増加も続いてきたが、県外からの高齢者受け入れを継続していくことは簡単ではない。

これまで埼玉県は全国の中でも高齢者の比率が低い県だったが、今後は急速な高齢化が見込まれている。2000年に33万人だった埼玉県の後期高齢者(75歳以上)は、2015年には77万人まで増加した。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口(平成30年推計)」によると、この数字は2020年の99万人を経て、2025年には121万人に達すると見込まれている。

●埼玉県の高齢者人口の推移



資料:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成30年推計)」
(注)四捨五入の関係で、合計が一致しない箇所がある

団塊の世代が後期高齢者となれば、県内でもますます社会福祉施設等の需要が増加していくことになるだろう。現時点でも多くの社会福祉施設で人材不足が問題となっている現状を鑑みると、人材確保など雇用面の課題解決に早急に取り組んでいく必要があると考えられる。

(井上博夫)